

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】令和 4 年 3 月 28 日(2022.3.28)

【公開番号】特開 2021-108889(P2021-108889A)  
【公開日】令和 3 年 8 月 2 日(2021.8.2)  
【年通号数】公開・登録公報 2021-034  
【出願番号】特願 2020-1939(P2020-1939)  
【国際特許分類】  
A 6 3 F 7/02(2006.01)  
【F I】  
A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

10

【手続補正書】  
【提出日】令和 4 年 3 月 17 日(2022.3.17)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】特許請求の範囲  
【補正対象項目名】全文  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】  
【請求項 1】

20

複数の演出態様が実施可能な演出手段において、  
前記演出手段は、  
第 1 の可動体と第 2 の可動体とを備え、  
前記第 1 の可動体の少なくとも一部分と前記第 2 の可動体の少なくとも一部分が当接可能となっており、  
前記第 1 の可動体と前記第 2 の可動体の作動を制御する作動制御手段を備え、  
前記第 1 の可動体は、  
第 1 の略筒形状を有し、  
第 1 の作動と第 2 の作動を実施可能であり、  
第 1 の位置から第 2 の位置に移動可能であり、  
前記第 1 の位置と前記第 2 の位置との移動方向は、前記略筒形状の中心軸に沿って移動可能であり、  
前記第 2 の可動体は、  
前記第 1 の可動体における略円筒形状とは異なる形状である第 2 の略円筒形状を有し、  
前記第 2 の可動体の中心軸を基準に回転可能となっており、  
第 1 の状態では前記第 1 の可動体を前記第 1 の作動と前記第 2 の作動を可能とする複作動モードと、  
第 2 の状態では前記第 1 の可動体を前記第 1 の作動のみを可能とする単作動モードを有し、  
前記単作動モードは、  
少なくとも前記第 1 の位置と前記第 2 の位置の双方で実施可能であり、  
前記作動制御手段は、  
前記第 2 の作動を物理的に制限する制限手段を有することを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正 2】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 0 3  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

50

## 【 0 0 0 3 】

特許文献 1 には、回転動作を行うことで所定の可動演出を行う可動演出役物を備えた遊技機が開示されている。

## 【 手 続 補 正 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 0 4 】

【 特 許 文 献 1 】 特 開 2 0 1 6 - 5 9 4 9 8 号 公 報

10

## 【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 0 5 】

このような遊技機において、遊技の興趣をさらに向上させることが望まれている。

## 【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 6

20

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 0 6 】

本発明は、上述した課題に鑑みてなされたものであり、遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的とする。

## 【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

30

## 【 0 0 0 7 】

本発明に係る遊技機は、複数の演出態様が実施可能な演出手段において、前記演出手段は、第 1 の可動体と第 2 の可動体とを備え、前記第 1 の可動体の少なくとも一部分と前記第 2 の可動体の少なくとも一部分が当接可能となっており、前記第 1 の可動体と前記第 2 の可動体の作動を制御する作動制御手段を備え、前記第 1 の可動体は、第 1 の略筒形状を有し、第 1 の作動と第 2 の作動を実施可能であり、第 1 の位置から第 2 の位置に移動可能であり、前記第 1 の位置と前記第 2 の位置との移動方向は、前記略筒形状の中心軸に沿って移動可能であり、前記第 2 の可動体は、前記第 1 の可動体における略円筒形状とは異なる形状である第 2 の略円筒形状を有し、前記第 2 の可動体の中心軸を基準に回転可能となっており、第 1 の状態では前記第 1 の可動体を前記第 1 の作動と前記第 2 の作動を可能とする複作動モードと、第 2 の状態では前記第 1 の可動体を前記第 1 の作動のみを可能とする単作動モードを有し、前記単作動モードは、少なくとも前記第 1 の位置と前記第 2 の位置の双方で実施可能であり、前記作動制御手段は、前記第 2 の作動を物理的に制限する制限手段を有することを特徴としている。

40

## 【 手 続 補 正 7 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 8

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 0 8 】

50

本発明によれば、演出態様を多彩にし、遊技の興趣を向上させることができる。

10

20

30

40

50